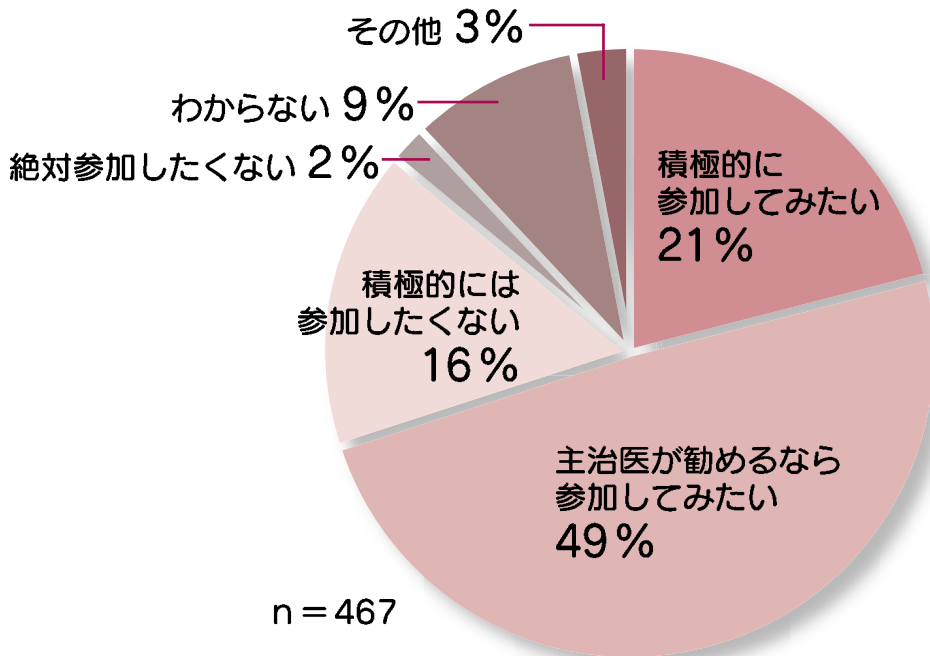


Q. あなたが「治験」を勧められたら、どう思いますか？



“積極的に参加してみたい”“主治医が勧めるなら参加してみたい”を合わせて7割と、「治験」に対して前向きな患者さんが多い結果となりました。しかし、下のグラフでもわかるように、実際に「治験」に参加した経験のある患者さんは全体の1割。“参加に興味があるが都市部しか採用がない”“積極的に新しい薬や治療を希望するが、かかりつけの診療所では治験を行っていない”など、居住地域や通っている医療施設によって、「治験」情報に接する機会に差があるようです。

「治験」に参加された方の約8割が“また参加したい”と答えている一方、回答者の9割を占める治験未体験の患者さんに、どのような不安があるのかを聞いてみました。やはり“副作用”や“病状悪化”の不安がもっとも多く、“もしも”の際の医療スタッフ側の対応を心配しているようです。また、“治験に対する情報提供”“治験終了後の健康面などのフォロー体制”も、自分の体を提供する患者さんにとっては重要なファクターであるこ

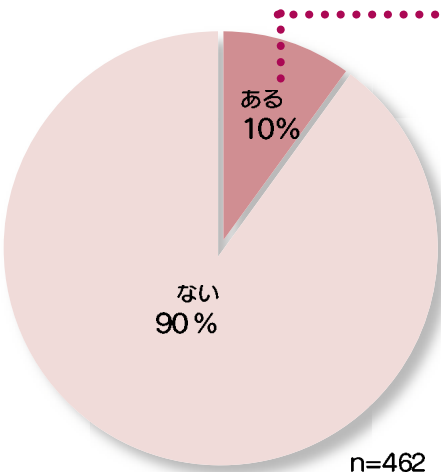
とがわかります。“現在の薬が合っていないのであれば参加してみたいが、現在の薬に満足しているのであれば、自分が治験に参加するメリットは見出せない”“未来の人のためだけの「治験」ではないと思うので、その後のフォローの保障はしてもらいたい”“せっかくコントロールが良好なのに、その体調を崩すリスクを背負うのは不安”といった患者さんの本音にも耳を傾ける必要があるのではないのでしょうか。

Q.「治験」に参加するには、なにが不安だと思いますか？

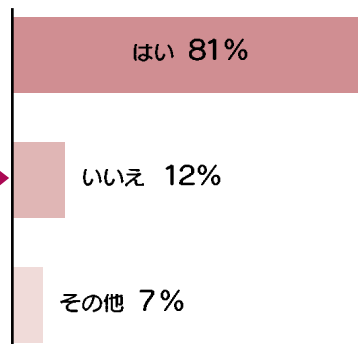
(複数回答あり)

副作用が起こるかもしれない	379名
効果がない、病状が悪化する	
かもしれない	216名
わかりやすい説明・情報開示の有無	190名
指定された他の医療施設に通わなければならない	145名
治験終了後の健康面などのフォロー	199名
治験中に他の治療薬を使用できない	106名
通院回数が増えたり、診療時間が長くなる	127名
その他	17名

Q.「治験」に参加したことはありますか？



Q. また参加したいと思いますか？ (n=44)



コメンテーター

鈴木吉彦 (日本医科大学客員教授・(財)保健同人事業団付属診療所所長)

治験を受けてもよいと考えている患者さんが3人に2人以上いることは、非常に多いという印象です。このデータは今後の新薬開発に弾みになるでしょう。ただし、治験を行う薬剤が海外で承認されている場合と、されていない場合では信頼性に差がでます。海外で承認され発売され、人気があって品切れになっているという薬なら、ぜひ使いたい患者さんが多いはず。また要望が高ければ、日本での承認が早まることもあるようです。今後は、治験にあたって良い薬かどうかを見極める能力が医師側に期待されることでしょう。